

福祉の心と仲間の輪を広げていきたい



会員の皆さん。前列左から遠藤アサさん、佐々木実さん、瀬川愛子会長、関山幸子さん、後列左から井上京子さん、柳谷喜美子さん、遠藤明子さん、高橋京さん(他に、藤原光子さん、松田道子さんの計10人で構成)

第68回県社会福祉大会 社会奉仕功労団体県知事表彰受賞
八幡平市朗読奉仕 ほおずきの会

平成4年10月26日、旧西根町で設立。活動23年目を迎える。市内の視覚障がい者の方々に、市や市社会福祉協議会の広報を朗読・録音して配布する「声の広報」などをはじめ、小中学校などでの読み聞かせ活動を実施。その活動が認められ、第68回県社会福祉大会(11月11日、県民会館)で、社会奉仕功労団体県知事表彰を受賞。現在、会員数は10人、瀬川愛子さんが会長を務める。

「情報を正確に、聞きやすく伝えることを大切にしています」と、活動の信念を語るのは、第68回県社会福祉大会で社会奉仕功労団体県知事表彰を受賞した「八幡平市朗読奉仕 ほおずきの会」の皆さん。

旧西根町で開催された朗読講座をきっかけに会を発足。視覚障がい者や高齢者のために、広報などをテープに吹き込み、情報を伝える活動を続けてきました。毎年、利用者との交流研修

会を開いていることも特徴的で、研修会を通じて生まれた「料理メモ」の吹き込みは、好評を得ています。

会では、その他に絵本や詩の読み聞かせなども行っています。幅広い活動が継続している秘訣について伺うと、事務局の関山幸子さんは「聞き手の反応や感想の手紙などをもらうことで、会員も元気をもらっています。会員の仲も良く、共に向上心を持っていくことです」と、にっこり。

今後について、瀬川愛子会長は「これまでの経験で培った朗読の技術や知識を伝え、仲間の輪を広げていきたいです。興味がある人は催しなどに足を運んでいただき、ゆくゆくは一緒に活動できればうれしく思います」と、こやかな表情を浮かべました。

今月の表紙 手作りのしめ飾りでお正月を

12月16日、東大更学童保育クラブの児童10人が、旧東大更小学校でしめ飾り作りに挑戦しました。

材料は、昨年児童たちがバケツで栽培体験をした稲のわら。全員が初体験という縄に苦戦しながらも、徐々に感覚をつかみ、縄を作り上げました。児童たちは、松ぼっくりや扇などを飾り付けたしめ飾りを手に「お正月が待ち遠しい」と、笑みを浮かべました。



わらで縄をなう子どもたち

編集後記

ふるさとCM大賞の作品制作に携わりまして、初参加ながら銀賞を獲得することができました。制作に当たっては、知識も技術もゼロからのスタートでしたが、約5カ月間、試行錯誤しながら仲間と共に過ごした時間は、本当にかげがえのないものとなりました。結果がついてきたことで喜びもひとしおですが、何よりもこの経験と作品と仲間たちがたまらなく愛おしいです。ありがとうございます。

①沙